

STOP 糖尿病

2019年10月21日 糖尿病ケアチーム通信 第6号

ゾルトファイ配合注フレックスタッチ

持効型溶解インスリンアナログ/ヒトGLP-1アナログ配合注射液「ゾルトファイ配合注フレックスタッチ」が新しく発売となりましたので、薬剤の特徴・用法等について紹介します。

ゾルトファイ配合注フレックスタッチは**持効型インスリン「トレシーバ」**と**GLP-1作動薬「ビクトーザ」**の混合製剤です。それぞれの特徴は・・・！？

持効型インスリン「トレシーバ」・・・血糖降下作用が24時間以上持続する**1日1回投与の基礎インスリン製剤**
毎日一定のタイミングであればいつでも投与可能

GLP-1作動薬「ビクトーザ」・・・**インスリン分泌を血糖値に応じて促進させ、同時に血糖値を上げるホルモン（グルカゴン）の分泌を抑制する作用**がある

1日1回投与する薬剤で単独では低血糖を起こしにくい

主な副作用は胃腸障害（悪心、便秘、下痢、嘔吐等）

ゾルトファイ配合注は上記2剤の混合製剤で、**1ドーズ＝トレシーバ1単位+ビクトーザ0.036mg**です。
ゾルトファイ配合注フレックスタッチのダイヤル表記の1目盛りが1ドーズとなります。

【効能または効果】インスリン療法が適応となる2型糖尿病



【用法および用量】通常、成人では**初期は1日1回10ドーズ（トレシーバ10単位/ビクトーザ0.36mg）**を皮下注する。投与量は患者の状態に応じて適宜増減するが、**1日50ドーズを超えない事**。

注射時刻は原則として毎日一定とする。

【用法および用量に関連する注意】

- ・インスリン製剤以外の糖尿病用薬による治療で効果不十分な場合、低用量（10ドーズ未満）からの投与も考慮
- ・インスリン製剤による治療で効果不十分な場合、開始用量は通常10ドーズだが、1日1回16ドーズまでの範囲で増減できる

【副作用】**低血糖**、膵炎、腸閉塞、便秘、悪心、下痢、腹部不快感などの**胃腸障害**

【使用上の注意】

- ・毎回同じ場所へ注射をせず、2～3cmずらす。
- ・注射を行う際は必ず空打ち（2ドーズ）を行なうこと。
- ・混合製剤だが、使用する前に10回振る必要はない。
- ・未使用の製剤は冷蔵庫保管し、使用中の製剤は室温（30℃以下）で保管し3週間以内に使用、25℃以下の保管であれば4週間以内に使用する。また使用中の製剤は冷蔵庫保管（2～8℃）も可能であるが凍結をさけ4週間以内に使用すること。



～ビクトーザ皮下注18mg 用法・用量一部変更についてのお知らせ～

ビクトーザは0.9mgを維持用量として1日1回朝または夕に皮下注します。投与開始時には1日1回0.3mgから開始し、1週間以上の間隔で0.3mgずつ増量、1日0.9mgで効果不十分な場合には、0.3mgずつ増量し**最高1.8mgまで増量することが可能**となりました。それに伴い、**新包装の薬剤は1.2mg・1.5mg・1.8mgの目盛りも追加**となりました。旧包装の薬剤は0.9mgまでの目盛りのため注意しご使用下さい。

文責 薬剤師 木村・新井山